



2020年度は2,328件の相談がありました！ 前年度比138.7% 650件増

2020年度は「協同の理念とともに『つながり』を大事にする」ことを基本方針として、4つの主体事業と2つの連携事業に重点をおいて事業活動に励みました。「新型コロナウイルス感染症」によって、これまでの「つながり」のあり方ではなく、パンデミックの中での「つながり」のあり方が求められ、相談者とウィズとの関係、職場内や連携団体とのつながり方など、対面で会えない中でのコミュニケーションや支援手法、またその環境整備の推進など、課題や困難が多かった1年となりました。

相談事業においてもコロナは件数、内容に大きな影響を及ぼし、年度の相談件数としては過去最高となりました。

居住支援事業

住まい探し＆住まい活用に困った方のお手伝い

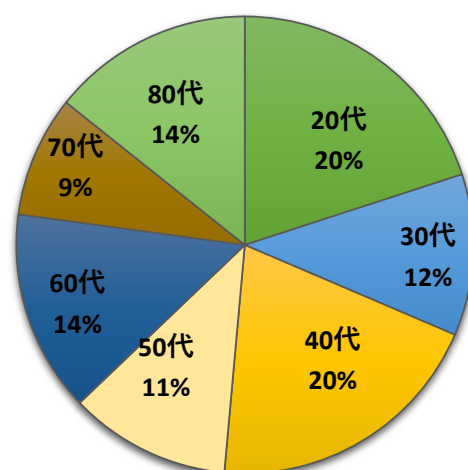
2019年8月に東京都から居住支援法人としての指定を受けてから2年目となり、2020年度から専門の相談員を配置して積極的に取り組みました。

東京都や他団体からの紹介、パルシステムのチラシを見た方やウィズHPの相談フォームからなど、相談の入り口は様々となりました。

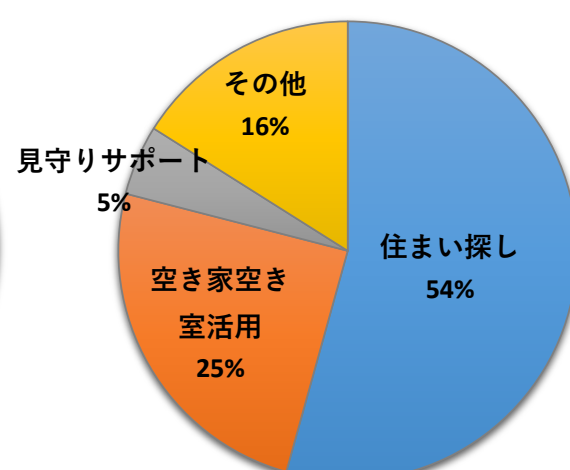
面談や同行が必要な案件に関しては、行政や他の居住支援法人と連携しながら対応をしました。

2020年度は国土交通省の「居住支援法人活動支援事業」の補助金交付団体となり補助金交付を受けました。

居住支援相談実績81件。うち、住まい探し相談は44件あり、アパート転居4名、施設1名の入居が決まりました。



相談当事者の年代比率

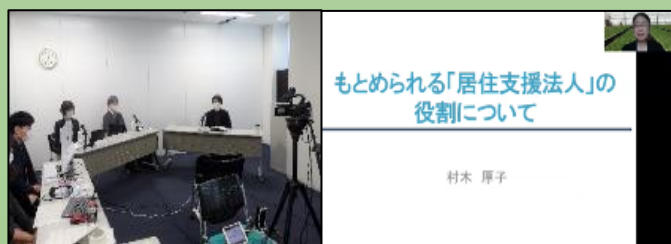


相談内容の分類比率

一般社団法人全国居住支援法人協議会 事務局 居住支援法人の活動支援や国・行政機関と課題協議

昨年度から引き続き行った居住支援法人研修会に加え、新たにリーダー研修会の開催、居住支援法人標準テキストの作成を行いました。また、居住支援相談窓口についてHPにわかりやすく案内し、制度運用の実態調査と包括的支援に向けた2つの調査・研究事業にも取り組みました。

居住支援法人の普及と推進に向け、住宅セーフティネット法を横断的な運用ができる仕組みとしていくために三省庁の局長へ要望書を提出しました。



もとめられる「居住支援法人」の役割について

村木 厚子

居住支援法人研修会

一財) 高齢者住宅財団からの業務委託を受け、全国各地域での住宅確保要配慮者に対する居住支援活動の普及拡大を目的にオンライン開催 全5日間のべ961名の参加

リーダー研修会

居住支援に関するリーダー養成の研修会 オンライン開催 全3日間34名の参加

居住支援法人 標準テキスト作成



住宅セーフティネット法等の理解や居住支援法人の役割、ミッション、事業活動に必要な知識やケーススタディなどをまとめました。

2021年2月に国土交通省、厚生労働省、法務省三省の局長に要望書の提出



要望書を三省庁局長への提出

居住支援相談窓口 (アドバイス事業)



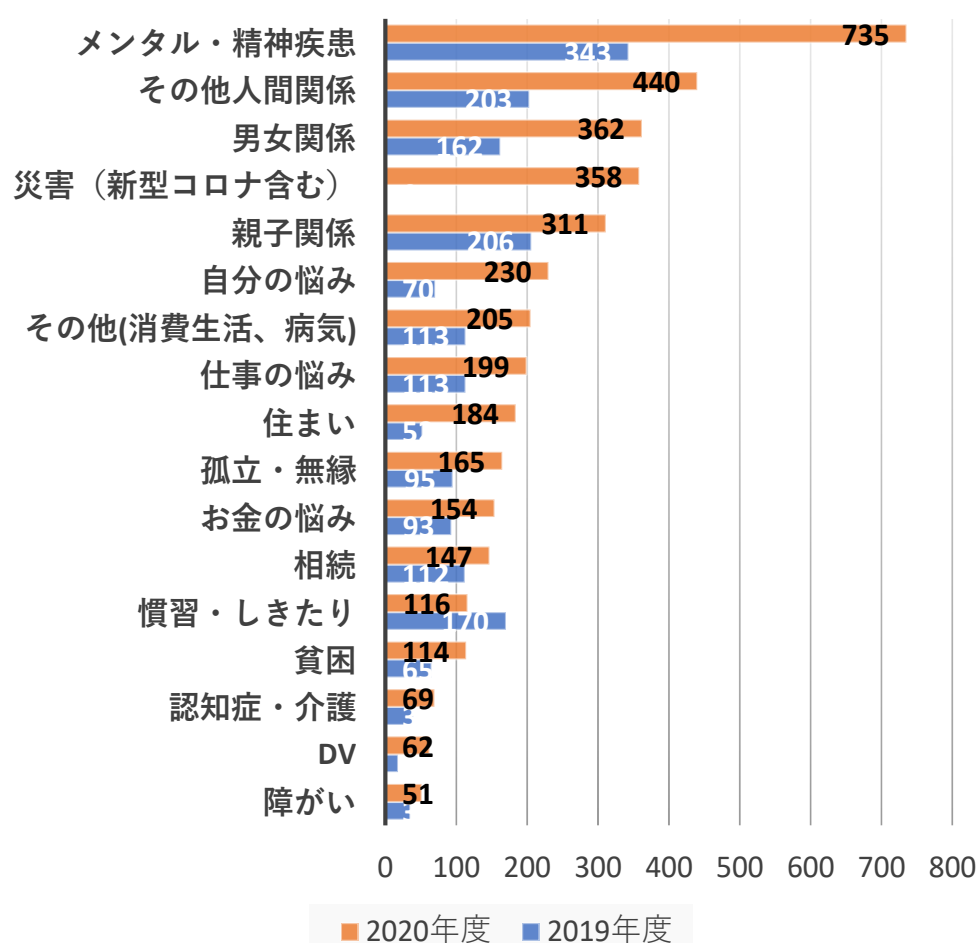
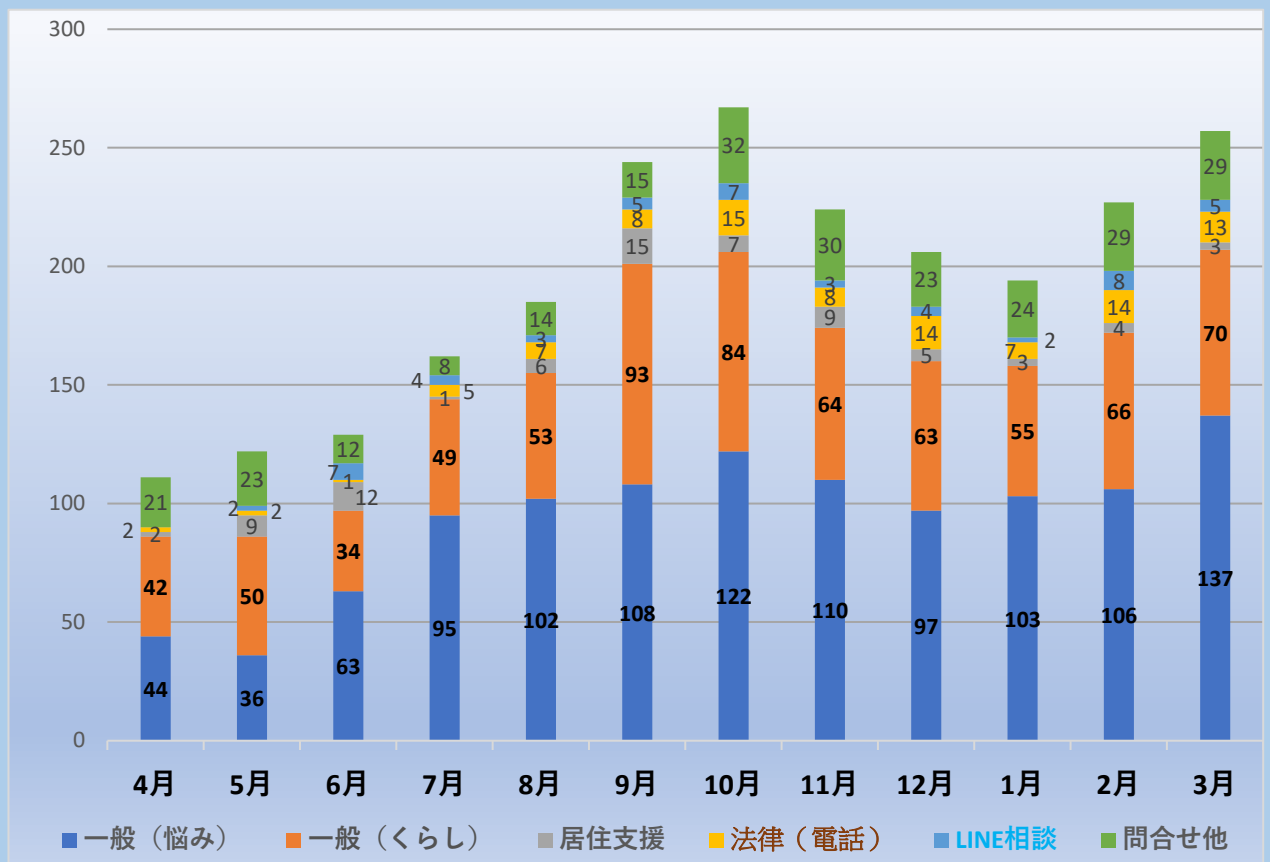
相談事業

夫婦間不和 成人した子どもの悩み 近隣とのトラブル 増加！

2020年度はステイホーム期間の4月～6月急激に減少しました。7月以降、ウィズコロナへと意識が変わってからは相談が徐々に増え、年間の相談は2,000件を超える結果となりました。

「新型コロナ」に関連する内容が多くあり、人間関係、それに絡む事象の問題（別居、離婚、相続、介護、借金など）が増えました。

コロナ禍で生活、人との関わりに変化があり、自分と向き合う機会が増えたことで、これまで先延ばしにしてきた不安や課題に向き合わざるを得なくなったことが考えられます。

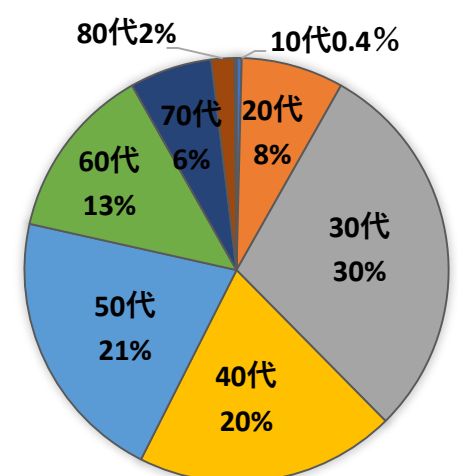


相談に複数付与するキーワードとして、2020年度新設した「災害（コロナ含む）」は358件で上位にあがりました。コロナに関連して悩みや問題が起きていると考えられます。

「人間関係」、「男女関係」の相談は倍増しており相談中も相談員に対して怒りをぶついたり、激昂したりする相談者が年明け位から増えました。自粛疲れ、コロナストレスが様々な所で表面化しているといえます。

相談者の年代

20代以下の相談が増え、就活やマナー等の相談もありました。一方で、80代以上の相談者も増え、相続、住まい、お金などの悩みが寄せられています。



～家族が家にいて、電話がかけにくい方に向けて～
『**くらしの困りごとLINE相談**』

『くらしの困りごとLINE相談』
受付中！

ID @941loapn



コロナ禍での対応として「くらしの困りごとLINE相談」を5月から始めました。

昼間は仕事で忙しく電話をできない30代、40代や、電話よりもSNSの方が相談しやすいと思われる方からの利用が多かったため、継続して実施しています。

年間で51件（月平均4.6件）の相談が入っており、電話相談につながるケースもありました。全国各地だけでなく、海外からの相談もあり、内容也多岐にわたっています。

* LINE相談は、1案件につき原則1回のみ回答しています。

夫がテレワークになり、監視されているような気がして心が休まらない。

両親の面倒をひとりでみているのでイライラしてしまい老人虐待のようなことをしてしまう。気持ちの抑え方のアドバイスが欲しい。

夫の不倫が原因で、離婚を考えている。何を用意すれば、有利になるか

人材育成事業

第7期「協同を学ぶ」インターンシップ

＊＊つながりインターンシップ@協同＊＊

2020年度は体験型を中止し、オンラインを活用した調査型インターンシップという新しい領域に挑戦しました。学生を1チーム3名にわけ、チームで受入団体（系統別グループ）へのインタビュー調査や分析、報告を行う形で実施したことで、インターカレッジでの仲間づくりや団体への自主的なアプローチを行うなど、これまでにない主体的な学びにつながりました。

参加学生：2020年度インターンシップ生18名

参加団体：受入団体17、協力団体5

参加大学：8大学9学科（駒澤大学、静岡県立大学、中央大学、日本大学、法政大学、明治大学、目白大学、立教大学）

企画・運営協力：過年度インターンシップ生3名 2020年度インターンシップ生3名

《インターンシップ ダイジェスト》

8月
キックオフ・イベント
53名参加
ブレイクアウトル
ームに分かれて団体と
学生が意見交換



8月末～10月
・系統別の学生チームで各団体にインタビュー調査
・報告書作成に向けた準備
すべてオンライン実施！

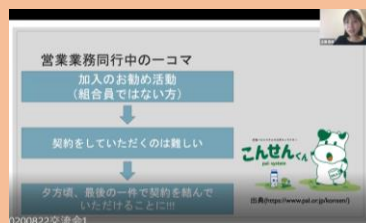
12月
修了報告会&交流会
71名参加

各学生チームの発表
受入団体からのコメント
参加学生からの一人一言など

修了報告書データはHPにアップ



8月 交流会
31名参加
受入団体職員と
本インターンシップ
生の対談など



2020年度学生の感想

生協職員3名の方へのインタビューで「働くとは？」の質問に対する答えが印象的でした。三者三様の答えでしたが、それぞれ明確に働く理由を持っており、それを実現したいから働いていると伺いました。1人1人思いを持って働いていらっしゃる姿は本当に輝いて見えて、自分もこのように“思い”を持って働きたいと思った瞬間でした。

奨学金伴走支援

パルシステム連合会では、学びの意欲をもちながらも、経済的・社会的に困難な状況にある学生を対象に、月4万円を給付するとともに、生活面や精神面の伴走支援、社会学習の場への参加などを提供する「パルシステム給付型奨学金制度」を開始しました。ウィズでは奨学生の伴走支援と協力団体との連携を担っています。

対象学生：4名(2019年度2名 2020年度2名)

2019年度奨学生のうち、1名は無事卒業し、目標としていた職業に就くことができました。もう1名は障害による生活上の困難やコロナでの孤立感で不安定な状態が続いたため、保護者や大学と連携した伴走を行いました。

2020年度奨学生は直接伴走支援をしている団体と連携し、月1回の面談報告での状況把握、必要な情報提供などを行いました。2名とも1年生で、コロナの影響で大学の授業やアルバイトなど様々な制約を受け、困難の伴う1年でした。

卒業した学生の感想（抜粋）

伴走型支援のある給付型奨学金を受けて、金銭的にも精神的にも私を支えてくださる存在があることにとても救われました。一人ではないことで、私は私らしく過ごすことができました。体調を管理しながらアルバイトを継続しなければならないプレッシャーから解放され、大学での勉強に、ボランティアの活動に、自分のしたいと思うことを実現することができました。

これまで、私を支えてくださった全ての方からの感謝を胸に、私も誰かの力になる事で、私を支えてくださった方々への恩を次に繋いでいきたいと思います。



その他の活動

ひきこもり女子会@パルシステム埼玉

3月29日（月）「ひきこもり女子会」を開催しました。
緊急事態宣言発出により2月開催を延期しての開催。「和みのヨーガ」でゆるやかに心と体をほぐし、当事者スタッフからの近況報告やグループトークを行いました。



11月25日にはNHKの「あさイチ」でひきこもり女子会主催団体として紹介されました。

熟年離婚する前に 知っておきたい大切な事



11月4日（水）に講座を開催しました。17名が参加されました。うち8名は専業主婦で、50代と40代が中心。「別居と離婚、どちらを選ぶほうが自分にとって有利なのか」などの質問もありました。

社会的養護下の若者支援

2020年度若者おうえん基金

第3回若者おうえん基金では、寄付総額が21,613,128円となり、伴走支援枠：7団体、先駆的实践枠：8団体へ助成を行いました。

2020年度は5、6月に、社会的養護を巣立った若者を支援する団体に対して、コロナ対策の費用や孤立する若者に物資を送る資金に活用してもらうための「新型コロナ緊急助成」を実施し、85団体へ助成をしました。

「食糧支援がきっかけで孤立していた若者と繋がった」など、たくさんの感謝の声がありました。



若者おうえん基金

就労キャリア支援

「2020年度体験就労プログラム」を8月から開始し、自分で仕事を探すのが難しい若者を、協同組合等のたすけあいの組織の体験就労につないでいます。2020年度は3名の若者のマッチングを行いました。

※首都圏若者サポートネットワークは「社会的養の下に暮らす子どもたち等の多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とすること」を目的に活動しているネットワーク組織です。ウィズは共同事務局を担っています。

Information

電話法律相談のご案内（パルシステム組合員限定）

★ 暮らしの無料法律相談（毎月第4水曜日13～16時）

相談員 松本 美代子弁護士

心理カウンセラー経験のある弁護士が、相談者に寄り添った相談を受けます。

★ 女性のための電話法律相談（奇数月第2水曜日13～16時）

相談員 田中 記代美弁護士

結婚・子育てでさまざまな苦労を乗り越えた弁護士が、自身の経験をもとに寄り添い、離婚・DVなど男女関係の相談を受けます。

* いずれも相談料無料。事前予約制。お申込みおよび日程はホームページをご覧ください。

お世話になりました

ウィズで10年間皆と楽しく働きました。ウィズを社会に役立つ組織にするというのがパルシステム連合会の意志。スタッフ皆の頑張りでそうってきました。定年退職するにあたり幸せと感じます。社会問題はなお深く、新天地より、今後の連携もお願いしたいです。

志波早苗



1月末でご退職され、2月からはインターンシップ事業を委託し担ってもらっています

ウィズレポートお読みいただきありがとうございます。世界中がコロナ禍で健康や暮らしが脅かされていますが、関係者皆さまの協力で当法人は2020年度の事業を拡大し、無事新年度を迎えることが出来ました。これからも困難を抱える方へのお手伝いに励んでまいります。引き続き応援をお願いいたします。



編集後記

理事長 吉中由紀

暮らしサポート・ウィズの最新情報はホームページをご覧ください！



暮らしの相談ダイヤル

検索